

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.23〉

〈岬② 課題とキーマン〉

人口減少や少子高齢化は市内各地区の課題に挙げられているが、岬地区は市街地の中でも隣接する見初に次いで高齢化率が高い。地域団体役員の高齢化も進み、世代交代は喫緊の課題だった。そんな中で、2019年に坂井大介さん(53)が市内24地区では最年少の地区コミュニティ協議会長に就任。新しい地域づくりに向け奮闘している。



市内初の小学校体育館と合築されたふれあいセンター

小学校内にふれあいセンター

体育館と合築、環境生かし「新たな試みを」

地域活動の拠点とない」と語る。地区内は海拔が5以上のふれあいセンターは、下の土地が多くを占め神社隣にあつたが、市内の緊急避難場所初となる小学校体育館との合築により、2021年7月に移転。小学校体育館、児童保育との複合施設となり、行事参加者の年齢層の幅も広がった。

坂井会長は「施設が新しくなったからこそ、新しい試みをしやすくなったとも言える。小学校敷地内にもあり、児童保育も施設内にある環境を生かすのが課題」と危機感を感じながら地域づくりを募らせる。意識の高揚に向け、6月には住民を対象にしたハザードマップの勉強会も開催する予定という。

課題解決は地区内だけでは難しい部分もあり、他地区との連携も模索している。子ども委員会(伊藤俊一会長)は地区内の他団体に先駆けで、隣の見初地区との連携をスタートさせており、共催イベントもあり、子どもたちだけでなく、保護者の交流も行う。中学生の参加もあり、伊藤会長は「地域に親しみ、次世代の地域の担い手になってもらえば」と期待する。